

行政自治会だより

第4号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 天笠順弘

就任のごあいさつ



古河市行政自治会

あまがさよしひろ
会長 天笠順弘

皆様におかれましては、日頃より行政自治会の事業等にご協力いただき厚くお礼申し上げます。このたび、行政自治会の会長に選出されました、第18地区区長であり三和地区の宿行政区長の天笠順弘と申します。精一杯努めさせていただきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

5月上旬は、大気の不安定な状態が続きました。市内においても、大雨により西仁連川が氾濫警戒水位を超えました。また、大粒のひょうが降り、農作物に被害が発生しました。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。市外では、5月6日に、

県内外で竜巻が発生し、特につくば市の北条地区では観測史上最大ともいわれる竜巻により甚大な被害が発生し、現在でも復旧活動が続けられております。災害は、いつどこで発生するかわかりません。不幸にも災害に見舞われた場合には被害を最小限にし全力で復旧活動を行わなければなりません。それには、日頃から災害を想定し地域の力を蓄えておくことが重要であります。自主防災組織等を充実させるなど災害への備えを行っていただきたいと思ひます。

さて、昨年度に創刊されました「行政自治会だより」も2年目となります。行政自治会の活動を紹介するだけでなく、地区の紹介や歴史散歩などの読み物も掲載しております。皆様におかれましては、行政自治会についてより身近に感じていただき、積極的に行政自治会、地区及び自治会・行政区の活動に参加していただければと考えております。一人ひとりの力は小さくとも集まれば大きな地域の力となります。皆様のご協力をお願いいたします。

市原市町会長連合会が来市されました



5月18日に千葉県市原市の町会長連合会が来市され、とねミドリ館にて行政自治会の視察研修を行いました。組織の運営や行事、災害への備えなど、さまざまなことについて意見交換を行いました。

行政自治会では、今後も視察の受け入れ等で近隣の団体との交流や情報交換により、行政自治会の更なる発展に努めてまいります。

(広報委員 行政自治会 理事 間瀬佳嗣)

自治会長・行政区長委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

4月5日、とねミドリ館において、自治会長・行政区長226名と第1～20地区の正副地区長40名の委嘱状交付式が行われ、市長から委嘱状が手渡されました。

続いて感謝状贈呈式が行われました。今回の贈呈者は15名で、前行政自治会長の松本守雄氏は最長の27年間、自治会長としてご活躍されました。長い間、ありがとうございました。

平成24年度 感謝状授与者							
地区	自治会・行政区名	氏名	通算年数	地区	自治会・行政区名	氏名	通算年数
第1	仲之町	岩持 文彦	20年	第4	さつきが丘	梅本 誠	11年
第1	三丁目	福井 俊一	21年	第6	桃ヶ里	大高 滋	20年
第1	横山町	白石 和宏	11年	第8	新町	森 榮	12年
第2	東原	佐川 紀歳	7年	第13	北新町	中野 成幸	4年
第3	下三	並木 彦一	6年	第13	砂井新田	枝 昭壽	4年
第3	旭	大里 八郎	6年	第19	沼影第二	畠山 丈美	6年
第4	上町	松本 守雄	27年	第20	本田山	舟本 巖雄	22年
第4	青葉台	坂巻 富士夫	12年				

(順不同)



在職4年以上で退任した方に感謝状が贈呈されました

正副地区長会議報告 ～役員が決まりました～

4月5日に第1回正副地区長会議がとねミドリ館で行われ、行政自治会の新役員が決定されました。

第2回正副地区長会議は5月11日に総和庁舎で開催され、新年度の事業計画や予算について協議し、承認されました。

役員名簿及び正副地区長名簿については、下記のとおりです。

役員名簿

役職名	氏名	地区
会長	天笠 順弘	第18
副会長	渡邊 源次郎	第6
副会長	五月女 光男	第13
理事	鈴木 昇	第1
理事	舟橋 健夫	第9
理事	小菅 一男	第20
会計	間瀬 佳嗣	第16
監事	多並 栄吉	第4
監事	福永 清一	第8

正副地区長名簿

地区名	地区長	副地区長
第1	鈴木 昇(長谷町)	小堀 英男(桜町)
第2	橋野 靖(八幡町)	綿引 正衛(原)
第3	横山 泰男(下山一丁目)	針谷 勇(旭)
第4	多並 栄吉(大山四丁目)	生方 隆雄(中田一丁目)
第5	伊藤 利彦(松原町)	針谷 征四郎(裏新町)
第6	渡邊 源次郎(雷電二丁目)	鈴木 國雄(静町)
第7	有明 三郎(赤松町)	渡邊 一雄(新久田三丁目)
第8	福永 清一(新割)	新倉 英一郎(パティール135)
第9	舟橋 健夫(八幡町)	谷田部 克己(東泉町)
第10	山中 禮次郎(中辺見)	金谷 一男(女沼)
第11	上田 恵一(大堤)	大竹 栄(みずきの街)
第12	仲山 初男(駒羽根住宅団地)	大熊 勝美(釈迦)
第13	五月女 光男(内水海)	羽部 喜代司(高野)
第14	鈴木 勲(久能)	小菅 豊(葛生)
第15	那須 和弥(諸川西部)	鈴木 榮治(東諸川)
第16	間瀬 佳嗣(上片田宮前)	関 義夫(駒込)
第17	白澤 一夫(新和田)	椎名 卓(下片田)
第18	天笠 順弘(宿)	戸島 秀幸(仁連上町五)
第19	湯本 豊(小立野第二)	中村 明良(山田)
第20	小菅 一男(下尾崎二)	幸田 操(間中橋)

第3回行政自治会親善ソフトボール大会開催



選手宣誓(6月3日 上大野グラウンド)

心配された天候も曇天、絶好のソフトボール日和でした。チャレンジ男子38チーム、女子4チーム、エンジョイ48チームの参加のもと各会場で熱戦が展開されました。応援団を含め約2000人の市民が好プレー、珍プレーに興奮と笑いのなか、親善と交流を深めながら楽しい汗を流しました。

(広報委員 荻谷武士)

第3回行政自治会親善ソフトボール大会結果 ※各ブロックの優秀賞のみ

チャレンジ部門 (男子)参加38チーム	A小堤、B女沼、C本田山、D諸川西部、E関戸、 F久能、G下大野、H清水、I上辺見南町、J間中橋
チャレンジ部門 (女子)参加4チーム	上辺見
エンジョイ部門 (男女混合) 参加48チーム	A桜町、B桃ヶ里、C旭、D南長谷、 E下三、F赤松町、G栄、H茶屋町、 I松原町、Jけやき平、K鴻巣、L久能せせらぎ

地区紹介（第3回） ～第15地区～

始めに、紹介いたします古河市第15地区（仮称諸小学校区）は、新生「古河市」発足後、行政区も新たな枠組みの中、「第15地区」として14行政区で平成20年にスタート致しました。

組織の構成エリアとしては、東西は国道125号線沿い、東は西仁連川尾崎橋から、西は大川までの2.5km、南北は県道17号線沿い、南は折橋製作所から、北は西仁連川宝来橋までの1.7kmの狭い範囲に2200戸強の市民の皆様が生活している地域です。

歴史的には、市教育委員会設置の「諸川西門城跡」史跡案内板によると、1989年（平成元年）の測量調査の結果、諸川2559-1において、諸川西門城の城郭の一部を示す土塁が確認され、史跡を管理する中村家の資料によれば、戦国時代の天正年間（1573-1592）、古河公方に仕えた柑子信濃守が諸川を支配し、中村家の祖先に当たる中村豊後守がこれに仕えて活躍したそうです。西仁連川低地（もとの飯沼）を望む台地東側平坦部にあり、この一帯には、西門・古屋敷・屋敷添などの小字があり、現在はそのほとんどが宅地や山林に変わっています。

次に第15地区の具体的活動ですが、平成21、22年度においては、区長の全会一致の中、又、行政区全員、更には消防団、自警団ご協力により、「功労感謝の会」を開催いたしました。結果、参加300名を超え成功裡に終了いたしました。更に平成23年度においては、東日本大震災の被災地に対する義援金の集約及び諸川小学校に対するスクールパトロール隊の結成を地区内の皆様の合意により実施いたしました。スクールパトロール隊は諸川小学校の休日以外、登下校時に毎日活動しております。

最後に第15地区では課題解消におけ、少子高齢化を念頭に置き活動を強化しております。

1、現在、各行政区において、区長を始め、各種役員（任期2～3年）の次期選任が停滞し、当該区長がご苦労されています（区長の任期についても

更に議論をしていきます）。

2、自主防災のスタートが切れましたが、まだまだ組織が未熟なため、今後は有事の際を想定し防災・避難訓練等実施し組織強化を図ります。

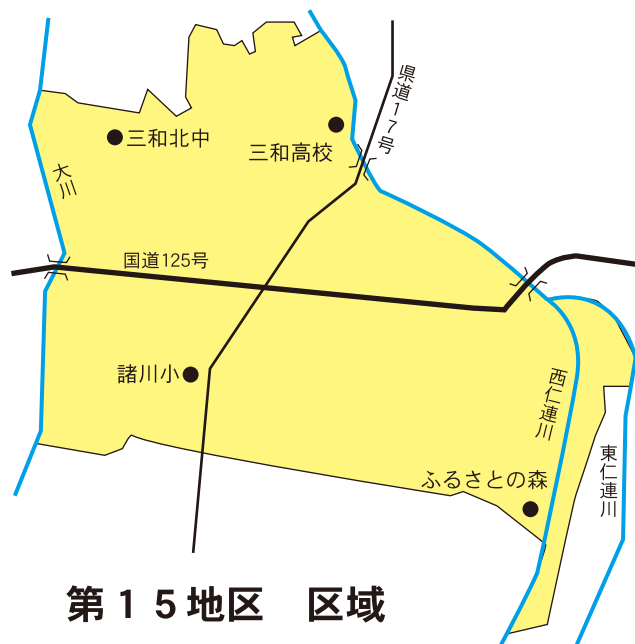
平成24、25年度も問題・課題は山積されていますが、第15地区の区長全員が同じ方向を向いて活動していきます。

以上、第15地区の地区紹介と致します。

（広報委員・第15地区長 那須和弥）



登下校の安全を守ります ～スクールパトロール隊～



第15地区 区域



後列左より 菅原和美 新倉英一郎 鈴木國雄 那須和弥
前列左より 坂本廣次 荻谷武士 伊藤利彦 間瀬佳嗣 横山泰男

広報委員会です！

広報委員の任期満了により、今号から新たなメンバーでの広報委員会がスタートいたしました。

取材などで皆様とお話しすることがあるかもしれませんが、その際には、お気軽にいろいろなお話をお聞かせください。

また、ご意見、ご要望等ございましたら、遠慮なく広報委員または事務局までお寄せください。

市内歴史散歩（第3回）

～ 足利成氏と総合公園 ～

古河総合公園は、市内鴻巣に昭和50年の開園以来、桃の名所としてテレビなどで毎年放映されています。総合公園は、桃にはじまりアジサイ、花菖蒲、大賀蓮の花の季節と、また公方の森、天神橋、御所沼の復元など古河公方関係の遺跡を中心にした史跡公園でもあります。

室町時代の室町幕府は、京都の本家足利氏と鎌倉の分家足利氏の2大中心によって、日本を二分して政治が行われていました。鎌倉府は関東8カ国と伊豆・甲斐の合わせて10カ国を統括し、後に陸奥・出羽までも管轄することになりました。鎌倉府の長官を鎌倉公方又は関東公方と言いました。これを補佐するものを関東管領と言いました。4代鎌倉公方足利持氏のとき京都将軍と鎌倉公方の間に対立が起こり、関東で争乱が続きました。永享の乱・結城合戦後、文安3年（1447年）に足利持氏の四男万寿王丸は、幕府に許され「足利成氏」と名を改め五代鎌倉公方になりました。先の乱や合戦で敗れ再起をはかる者達が、成氏のもとに集結し、上杉派との対立は次第に高まっていきました。享徳3年（1454年）、成氏によって、関東管領上杉憲忠が殺される大事件が起こり、関東の争乱は東国一帯の大乱に発展しました。「享徳の大乱」です。しかし、上杉側が幕府の支持を受けたため成氏は苦しい戦をしなければならませんでした。

康正元年（1455年）、成氏は鎌倉から古河の地に入りました。以後、小山氏をはじめ北関東の諸氏に支えられた成氏は「古河公方」と呼ばれ古河に城下を形成し、古河御所が北関東の中心的存在となりました。それに対し鎌倉の上杉氏は、太田道灌に江戸城や川越城を築かせ古河公方勢力と対抗しました。成氏が古河の地に入ったのは、下河辺荘の北端部に位置し、鎌倉府の所領（御料所）としていたことや、利根川・渡良瀬川など水陸交通の要所と自然の要塞地であったためといわれています。その後も利根川・渡良瀬川をはさんで古河公方と上杉方の攻防が続きました。幕府は、将軍の弟の足利政知を下

向させ鎌倉公方にしようとしたのですが、古河公方の攻勢にあって、やむなく伊豆堀越に住みました。成氏の方もついに鎌倉復帰を果たすことができず上杉氏、ついで京都将軍とも文明14年（1483年）に妥協和睦（都鄙の和睦）をし、古河公方のままだに明応6年（1497年）に64歳で没しました。

総合公園内に、台地上に石塔の建つ一角があります。それは、古河公方と呼ばれた古河足利氏が、鎌倉五山のように建立した「足利三ヶ院」と呼ばれた寺の1つであった徳源院の跡で、三ヶ院とは、長谷の永仙院、牧野地の松月院、ここ鴻巣の徳源院であり、いずれも鎌倉円覚寺末の禅寺で、古河公方歴代またはその関係者の法名を寺名としていました。三ヶ院とも明治初年の廃仏毀釈によって廃寺となっしまい、今は、それぞれ一部が史跡となって残っています。

次の句は中村真一郎氏(作家)がこの地を訪れた時に詠ったものです。

世幾星霜

「いにしへの 夢凍りけん 石ひとつ」中村真一郎
(北新町自治会 田嶋幸男)



足利三ヶ院

編集後記

行政自治会の平成24年度が、天笠新会長のもとスタートしました。広報委員も10人のうち6人が新しくなり、魅力ある広報紙発行に張り切っております。今回発行の第4号紙で古河・総和・三和の「地区紹介」「歴史散歩」のシリーズ記事が一回りいたしました。これからも引き続き紹介してまいりますと考えております。各地区のイベント、珍しい話題など皆様からの投稿をお待ちしております。

(広報委員長 伊藤利彦)

行政自治会広報委員会

委員長

伊藤利彦

委員

鈴木國雄 横山泰男 荻谷武士
坂本廣次 新倉英一郎 菅原和実
那須和弥 湯本豊 間瀬佳嗣